



# 雇用を守り、経済再生、暮らしを支えます!!

～富山県政、富山市政としっかり連携～

## 菅総理大臣へ直接、1月豪雪災害の緊急支援要請を!



▲令和3年1月12日 1月豪雪災害の支援緊急要請を菅総理に。新潟、石川、福井、富山を代表し4人の国会議員にて



令和3年1月 富山県スキー連盟会長として令和5年度全国高校スキー大会の県内誘致を要望



令和2年7月 神通川堤防の築堤工事現場視察



令和2年7月 国道8号豊田新立立体交差事業現場視察



令和2年10月 石川県知事等から北陸新幹線敦賀乗り入れ遅滞に関する緊急要望を受け取る



令和2年12月 歳末特別警戒活動を激励



令和2年11月 小泉大臣を迎えて東京での勉強会



令和2年9月 富山市保健所からのコロナ対策要望申し入れ

自由民主党 衆議院議員

郷音 ひびき新聞

たばた裕明 ひろあき

LINE

Facebook

Twitter

公式サイト

https://www.tabatahiroaki.com

令和3年1月7日～11日、北陸地方は記録的な大雪に見舞われ、県内各地でも甚大な被害が発生した。事態を重く見た田畑は、政府に対して財政支援を求め、緊急要請への調整を行った。同僚国会議員も豪雪対応にすぐさま応じ、また、石川県選出の岡田直樹官房副長官と具体的に協議した結果、菅義偉総理への「直談判」が決定。間髪を入れずに「極めて異例な」首相要望を実現させた。

緊急要望は「農産物生産・農業施設被害への支援」や「公共交通確保のための支援」、「生活必需品等の円滑な供給」などの迅速な支援を要請。同時に、再発防止への具体的な対策も提示しており、今後の豪雪への危機管理の必要性を強く訴えた。菅総理からは「しっかりと責任を持って行う。」と力強い回答をもらうことができた。とまず胸をなでおろした田畑であったが、「今年まだ大雪が降る可能性は否定できない。国と県でしっかりと連携をとり、緊急事態に対応できる体制を構築していきたい。」と表情を引き締めた。

### 豪雪災害に係る菅総理への緊急要請を主導



## 町内会単位での座談会を開催中!

昨年11月より、週末は各地で小規模の座談会を重ねている田畑。これまでのように「地区ごとに数十人に集まっていたらいい」というスタイルではなく、町内単位を中心に少人数で膝をつき合わせての本音トーク。

座談会テーマも、コロナ対策やワクチンの展望から、全世代型社会保障制度の方向性、米政策のあり方、豪雪災害支援やオリパラ開催への見通しなど幅広く、田畑にとって地元の名声を聞き取る絶好の機会と捉え、メモを取り真剣にご意見をうかがっている。

「国会議員になって9年目に入り、政策づくりの中心を任される場面も増えてきた。だからこそ地域の皆様のご意見をしっかりと聞き、小さなお声も政治に反映させるべく気を引き締め直して頑張りたい。何より皆様方からの叱咤激励は元気をいただけて嬉しい限りだ。」と笑顔で語った。

妻から見た、たばた裕明

第一話「料理好きな主人」

皆さま、日頃より大変お世話になり感謝申し上げます。普段の主人はとにかく仕事好き!常に動いていないと気が済まないタイプで、それはプライベートでも同じで、分刻みで動きますので、育児をしながらの私はいつも慌てているように思います。

基本的に主人は、平日は永田町でお仕事なので、週末富山で家族で過ごす時間は貴重です。意外にも料理好きの主人は、時間がある時は煮込み料理や麺類を作ってくれます!私も少しお手伝いしようとするのですが、それはダメなようでキッチンから追い出されてしまいます(笑)。最近のお気に入りの「豚の角煮」で、圧力鍋は使わず通常の鍋でコトコト煮込むのです。

もちろん片付けだってやってくれます!多少洗いのこがあたりキッチンがぐちゃぐちゃになっていることは目をつぶります(笑)。最近長男も食器洗いや米研ぎなどお料理のお手伝いをしたいと申しますので挑戦させております。こちらこそ多少キッチンが汚れようとも目をつぶります(笑)。男性は誉めて伸ばしたほうが良さそうですからね。

寒い季節の煮物料理は体が温まりますね。次は何を作ってくれるか楽しみです!

妻・あみこ

### 主な役職

自由民主党

- 国会対策副委員長 担当:厚生労働委員会 科学技術・イノベーション推進特別委員会
- 雇用問題調査会 事務局長
- 外国人労働者等特別委員会 事務局長
- 虐待等に関する特命委員会 事務局長
- 社会保障制度調査会 医療委員会 難病に関するPT事務局長
- いわゆる「ひびこもり」の社会参画を考えるPT 事務局長
- 新型コロナウイルスに関するワクチン対策プロジェクトチームメンバー

内閣

- 厚生労働大臣政務官 (平成29年8月～平成30年10月)

衆議院

- 厚生労働委員会 委員
- 総務委員会 委員
- 科学技術・イノベーション推進特別委員会 委員

### 事務所

富山事務所

〒930-0017 富山市東田地方町2丁目2-5

TEL: 076-471-6036 FAX: 076-471-6037

東京事務所

〒100-8982 千代田区永田町2丁目1-2 衆議院第2議員会館214号室

TEL: 03-3508-7704 FAX: 03-3508-3454

特別対談

# 野上農林水産大臣と

浩太郎

# 明日の日本を語る!!

～富山の皆さんの期待に応えて～



**野上** 農福連携は、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、働き手の確保につながるものであるとともに、共生社会の実現にも貢献するものです。  
一昨年6月に、官房長官を議長とする農福連携等推進会議において農福連携等推進ビジョンを決定し、昨年3月には経済団体等が参加するコンソーシアムを設立したところです。引き続き、厚生労働省等と連携して、ビジョンの実現に向けて取り組んで参ります。

**田畑** 政府は、「障がい者等が、農業分野で活躍することを通じて自信や生きがいを持ち、社会参画を実現すること」を目的とした『農福連携の推進』を方針として掲げています。私も大いに賛同するところであり、富山県内の障がい者施設が農産物生産に乗り出す事例が増えているなど農福連携により就労や生きがいづくりの場が増える動きが活発になっていくことを嬉しく思っています。農福連携の推進について、大臣のお考えをお聞かせください。

## 農福連携の推進について

### 野上浩太郎先生

●昭和42年5月生(富山県富山市出身)  
●平成13年7月:参議院議員に初当選(富山県選挙区・当選3回)  
●平成28年8月〜令和元年9月) 内閣官房副長官(令和2年9月)  
●令和2年9月:参議院議員に再当選(富山県選挙区・当選3回)



令和2年9月に農林水産大臣に就任された参議院議員野上浩太郎先生。これまで野上大臣と田畑は連携しながら国政で仕事をしてきた。今回は、日本の未来を担う二人による「明日の日本を語る」特別対談をお届けします。

## コロナ禍での生産者への支援は

**田畑** 農水大臣のご就任、誠におめでとうございます。さて、農林水産業は、国民に食料を安定供給し、食品関連産業とともに地域の経済を支えています。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響によって、需要減少・価格低下に見舞われた、農林漁業者、加工業者、甚大な影響を受けた外食産業に対する支援を着実に進めていかねばなりません。また、今後も起こり得る食料供給上のリスクや、新たな生活様式による需要の変化、社会全体における更なるデジタル化の進展にも対応していく必要があります。大臣として、どう職責を果たしていくのかお聞かせください。

**野上** まず、農林水産業及び食品産業に従事されている皆様方には、大変厳しい状況の中、食料の安定供給という極めて重要な責務を担ってくださっていることに心から感謝申し上げます。

農林水産省では、国民への安定的な食料供給を最優先に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた農林水産業の生産基盤を守るため、今後国会に提出される第3次補正予算も含め、様々な支援策を用意しておりますので、生産者の皆様方に寄り添いながら、経営をしっかりと支えて参ります。



## 大臣として臨む 通常国会への意気込み

**田畑** 大臣に就任以来、コロナ対応や豚熱、鳥インフルエンザへの防疫対策を指示したり、豪雪災害地への視察など全国各地を見渡したりと、激務をこなされる日々だと思いますが、就任当初からすると徐々に巡航速度に入ってきたという実感もありません。いいのでしょうか。現在は通常国会中ですが、あらためて今国会への意気込みや、ふるさと富山の皆様へのメッセージをお願いいたします。

**野上** 農林水産業は、関連産業である食品産業と共に国民の皆様へ食料を安定供給し、地域の経済やコミュニティを支え、その営みを通じて、国土の保全などの役割を果たしている、まさに国の基です。その農林水産業を発展させ、日本の原風景である美しく豊かな農山漁村を守っていかねばなりません。そして、このことは地方の活性化に直結するものです。日々、身が引き締まる思いで、緊張感を持ち、全身全霊で取り組んで参る決意です。

## 結び

**田畑** 同じ富山選出の国会議員として、野上大臣の今後益々のご活躍を心よりご期待申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

令和3年1月上旬 農林水産大臣室にて

# 自民党政務調査会にて田畑は4つの勉強会の事務局長に就任。政策立案でも存在感を発揮!



▲第1回目は、政策テーマの洗い出しや議論のスケジュールを協議



▲11月27日PT設立にあたり、下村博文政務調査会長と綿密な打ち合わせを行う

## いわゆる「ひきこもり」の社会参画を考えるPT

令和2年12月に新たに設置されたプロジェクトチームである。田畑は「ひきこもり状態にある方は原因ひとつとって不登校や職場のトラブル等と様々であり画一的、マニュアル的な支援手法はなじまない。個々の状況に丁寧に寄り添うべきであり、支援の選択肢を幅広く用意すべき」と語る。  
当事者の望む居場所づくりや家族支援に、これまでの社会福祉政策ではカバーしきれない新しい領域であるとの認識に立ち、施策を検討すると意気込んでいる。



▲外部講師はリモート参加



▲事務局長は、議事の進行も担当

## 虐待等に関する特命委員会

外出自粛が続く中で、子供の見守り機会が減少し児童虐待リスクが高まっている。「児童虐待の早期発見・早期対応につなげる仕組みづくりが重要だ。地域の相談・見守り機能を強化し、児童福祉士や支援員の養成も政府が計画立てて着実に進めるべきだ」と虐待防止政策づくりを進めるにあたっての意識を語った田畑。高齢者虐待、障がい者虐待も在宅、施設それぞれ特有の対策が必要であり、委員会ではICTを活用した新たな支援のあり方も議論している。